

Economic Indicators

発表日：2018年12月3日(月)

一般会計税収(2018年10月末)

～第二次補正は2兆円強程度を予想～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 星野 卓也 (TEL:03-5221-4547)

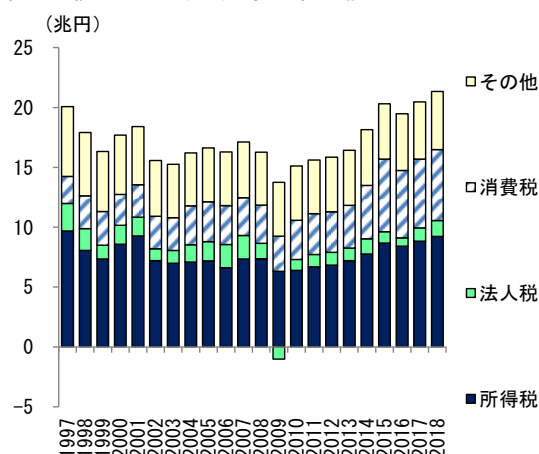
所得税が着実に増加

財務省が公表した2018年10月末までの累計税収額は21.3兆円(前年比+4.2%)と増加した。筆者作成の季節調整値でも、増加傾向にある。

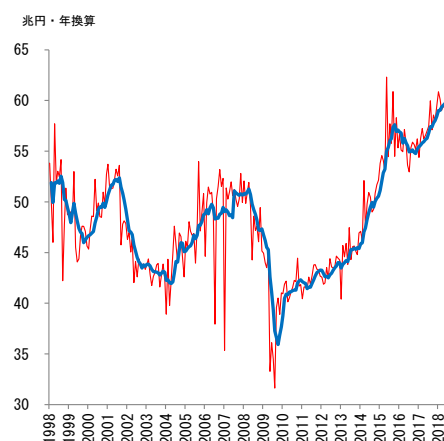
10月末までの累計税収について税目別にみると、所得税は9.2兆円(同+4.6%)と増加、引き続き堅調に推移している。その他、消費税が5.9兆円(同+2.9%)、法人税は1.3兆円(同+19.8%)と増加、主幹3税が揃って増加している。法人税についてはこの時点では殆ど計上されていない(年度予算に対する進捗割合は10.9%)ため、増加幅の大きさは割り引いてみる必要があるが、基本的には企業業績改善を映じて増加しているとの認識で良いだろう。本日公表の法人企業統計によれば、7-9月期の利益は前期比減となったものの、4-6月期と均せば緩やかな増勢を保った形。自然災害の影響や輸出減速の影響で増益ペースは鈍っているとみられるが、ダウントレンドに入ったわけでは無いだろう。なお、来月の税収統計には3月決算法人の法人税(中間納付分)が計上されるため、法人税の趨勢をみる上で重要な月になる。

一部報道では、政府の2018年度税収見込み額が60兆円前後に修正されると指摘されている。仮に報道通りであれば1兆円程度の税収上振れになり、事前の筆者予測¹に一致する(2018年度当初予算時点での見込み額は59.1兆円)。この上振れ分は年末にかけて策定される第二次補正予算に充当されることになろう。第二次補正予算は国土強靱化のための公共投資が中心になり、追加歳出規模は2兆円強とみている。

資料1. 税収(10月末時点累計値)



資料2. 税収(季節調整値)の推移



(資料1出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」(資料2出所) 同左。季節調整値は筆者。太線は6ヶ月移動平均。

¹ Economic Trends「2018年度補正予算案のポイント～災害対策が中心、第二次補正は2兆円強程度に着地か～」。なお、税収増加期には中間見込値から決算で更に上振れるケースも多く、決算段階ではもう一段の上振れ余地もあるとみている。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。